

## 禍福は糾える縄の如し

(かふくはあざなえるなわのごとし)

禍福は糾える縄の如しとは、幸福と不幸は表裏一体で、  
かわるがわる来るものだということのたとえです。

災いと幸福は表裏一体で、まるでより合わせた縄のように  
かわるがわるやって来るものです。

不幸だと思ったことが幸福に転じたり、  
幸福だと思っていたことが不幸に転じたりします。  
成功も失敗も縄のように表裏をなして、  
めまぐるしく変化するものだということのたとえです。

『史記・南越列伝』には、「禍に因りて福を為す。  
成敗の転ずるは、たとえば糾える縄の如し」とあり、  
『漢書』には、  
「それ禍と福とは、何ぞ糾える縄に異ならん」とありあます。  
「糾える」は文語動詞「あざなふ」の命令形+完了を表し、  
文語助動詞「り」の連体形からで、  
「あざなふ(糾う)」は「糸をより合わせる」「縄をなう」を意味します。

成功に驕ることなく、失敗を恐れることなく、  
果敢にチャレンジしていきましょう。